

産婦人科の月曜日の外来を再開します

4月になり産婦人科医師が増え、診療体制が整いましたので、これまで休診と
していました月曜日の外来診察を再開します。初診の方や予約を取られていない
方も1診で診察させていただきますので、どうぞ宜しくお願いします。

「医療安全コーナー」——このほど、医療安全管理委員会では、当院で手術を受けられる方やベッド上での安静が必要な方を対象に、「肺血栓塞栓症予防について」という説明書を作成しました。その要旨を掲載いたします。ご理解のほど、お願い申し上げます。

肺血栓塞栓症予防について（抜粋）

肺血栓塞栓症とは？

肺血栓塞栓症は、血管の中にできた血液の固まり（血栓）が肺の血管につまって、呼吸困難や胸痛、時には心肺停止を引き起こす病気です。手術中や手術後、長期臥床（長い期間の寝たきり）では肺血栓塞栓症が起りやすい状態となります。これは、①手術により血液が固まりやすい状態に変化する、②寝たきりの状態が長いと足の血の巡りが悪くなるため、足の静脈に血の固まりができてやすくなるからです。肺血栓塞栓症がいったん発症するとおよそ30%の人が亡くなるといわれており、予防が重要となります。

予防について

当院では、手術の種類や患者さまの状態を考慮して予防方法を選択しています。

①ご自分でできる予防法（右図）

足首を伸ばしたり曲げたりする運動（底背屈運動）は足の血行を促進し、血栓ができにくくなります。

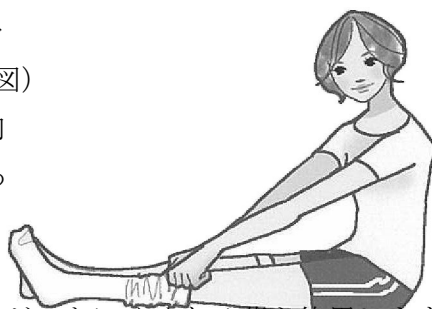
ベッドに寝ているときは時々ご自分で足首を動かしましょう。



②器具による予防法

弾性ストッキング：足首から段階的に締め付ける強さを変えたストッキングです。足の血行を良くして血栓ができにくくなります。（右下図）

フットポンプ：ふくらはぎや足の裏を空気力でマッサージし、筋肉の中の血液を絞り出して血液の流れを作ります。すでに足に血栓がある場合や、皮膚に異常がある場合には使用できないことがあります。



③薬による予防法

比較的リスクが高いと判断された場合、血液を固まりにくくして血栓ができにくくなる薬を使用します。